

(別記)

## 令和6年度音更町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

音更町は、十勝平野の中央部に位置し、広大な耕地を活かし、麦・豆類・てん菜・馬鈴しょなどを中心に、大規模に土地利用型農業を展開している。

一方、農家の高齢化や後継者不足から、農家戸数の減少がみられる。また、全耕地に占める麦の作付割合が3分の1以上と過作傾向にあることによる連作障害や、近年の異常気象等による反収低下、年次による収量変動が顕著となっている。

### 2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農家の高齢化に伴い労働力が低下している現状を考慮すると、本町ではすでに可能な範囲での高収益作物の導入がなされていると思われる。

また、転換作物は畑地で生産された作物と混合して出荷されるため付加価値の向上は見込まれない。

よって、引き続き個票の活用により、過年度の取組によって徐々に地域輪作体型の一部として導入された高収益作物の生産性向上への取組を実施し、作付面積の維持を目標とすることが必要である。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

#### ○ 地域の実情に応じた農地の在り方

本町の水田面積が約42haに対して令和5年度の作付転換面積は約37haであった。

この結果から、米の需要低下や農家の高齢化に伴う労働力の低下に対応し、水田を有効利用できていると言える。

引き続き産地交付金を活用することで、水稻以外の作物を生産する体制を維持するための取組を行い、地域の実情及び需要の変化に柔軟に対応できる産地作りを目標とする。

#### ○ 水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

過去3年間、水稻作付けを行っていない水田の耕作者に対して畑地化の意向調査を実施し、利用状況の点検を行う。

点検結果を踏まえ、耕作者の意向を尊重しながら、畑地化を促していく。

本町では、転換作物の中心に位置付けている麦、大豆の作付が労働力不足により、過作傾向となっており連作障害の懸念がある。これを防ぐために、麦、大豆に代わる高収益作物や、飼料作物など省力化作物の作付けを支援することで、作付面積を維持し輪作体系の確立を図る。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

生産の目安を基準とし、従来の収量維持を図るとともに、品質向上への取組の推進を図る。

### (2) 麦類、大豆類、飼料作物

地域輪作体系を維持するに当たり必要不可欠な主軸として、産地交付金の活用による生産性の向上を図る。

### (3) 小豆、菜豆類、野菜、花き、薬草

麦類、大豆類が過作傾向にあることから、産地交付金の活用により、地域輪作体系維持のために生産性向上への取組の推進を図る。

### (4) てん菜、澱原用馬鈴しょ

近年、低糖度や労働量の多さから作付面積が減少の傾向にあり、輪作体系の維持が困難になっている。産地交付金の活用により、作付の拡大、生産性向上への取組の振興を図る。

### (5) 地力増進作物

地力増進作物については休閒緑肥等による土作りを行い、作付の拡大、生産性向上への取組の振興を図る。

### (6) そば、なたね

麦類大豆類に代わる省力化作物として作付拡大を図っているが、過去5年間での作付実績は令和2年産、令和4年産なたねのみであるため、今後も産地交付金の活用により作付の拡大を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

～

## 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり